



新型コロナウイルスの感染拡大後、大分県内で初めての選挙戦となった日出町長選挙。各陣営は感染防止に細心の注意を払いながら支持を訴えています。

① 今回の選挙で町選管（選挙管理委員会）が懸念（心配）していることは何ですか？

新型コロナウイルスの収束が見えないことから有権者が投票に不安を感じ、投票率が前回より下がることを懸念している。

② 投票所の感染対策として町選管はどのような対応を取っていますか？

選挙事務従事者のマスク着用、定期的な換気・消毒を実施。間隔を取るため投票用紙の記載台の一部を使えないようにした。有権者にも、マスクの着用やソーシャルディスタンスの確保を呼び掛け、鉛筆の持参を認めている。

③ 今回の選挙戦の難しさについて、ある陣営の幹部は何と話していますか？

「本来なら一人一人に顔を見せ、しっかり手を握って支援を呼び掛けたい。今回は運動量が多いことで逆悪い印象を持たれかねない。難しい戦いだ」と話している。

④ 投票について、町選管は有権者に何と呼び掛けていますか？

「期日前投票は投票日前日、当日は午前が混み合う傾向にある。余裕を持って投票に来てほしい」と呼び掛けている。

町長選 対策手探り



↑期日前投票に訪れる有権者同士の間隔を取るため記載台の一部を「使用不可」に。下感染防止のため、マスク姿の支持者が集まった出陣式（25日、日出町、撮影・鎌手美和）



日出町

新型 コロナ

陣営 有権者との握手を自粛も

選管 記載台制限、鉛筆使い捨て

新型コロナウイルスの感染拡大後、大分県内で初めての選挙戦となった日出町長選挙。収束が見えず、有権者から不安の声が上がる中、各陣営は感染防止に細心の注意を払いながら支持を訴える。町選管は「安心して投票に来てもらえよう」と準備したとするものの、投票率が2016年の前回（58・51％）より下がることを懸念する。30日の投票率に向け、コロナ禍での戸惑いと手探りが続く。（12面に関連記事）

投票率の大幅低下懸念

26日に町内2カ所で始まった期日前投票。町役場に訪れた有権者は入り口で手指消毒をした後、町選管が準備した使い捨て鉛筆を使い、次々と投票を済ませた。豊岡の主婦（60）は「初日は人が少ないと思っただけで、投票所の対策はしっかりできていた」と安心した様子だった。

投票所の感染対策として町選管は、選挙事務従事者のマスク着用、定期的な換気・消毒を実施。間隔を取るため投票用紙の記載台の一部を使えないようにした。有権者にも、マスクの着用やソーシャルディスタンスの確保を呼び掛け、鉛筆の持参を認めている。それでも「人が集まる場所はやほり心配」との声もある。大分の農業男性（69）は「高齢者は感染時の重症化リスクが高いといわれている。自分でも気を付けているが、人の多い場所にはわざわざ向く候補者はいかなるものか」と話す。

25日の告示日。出陣式の会場に集まった支持者の多くがマスクを着用。候補者も有権者の間を回る際は、フェイシールドやマスクを着けていた。握手を控えた候補者もいた。ある陣営幹部は「本来なら一人一人に顔を見せ、しっかり手を握って支援を呼び掛けたい。今回は運動量が多いことで逆悪い印象を持たれかねない。難しい戦いだ」と悩む。

新型コロナウイルスが国内で急速に広まった3月以降、町内では多人数が集まる行事はほとんどが中止になった。これまでに感染者は出ないが、近隣の別府、杵築両市では今月に入っても感染が確認されている。町は「予断を許さぬ状況」との認識を示す。

ただ、町の方向性を決める重大な選挙だけに、投票率が大幅に下がることは避けたいのも本音だ。町選管は「期日前投票は投票日前日、当日は午前が混み合う傾向にある。余裕を持って投票に来てほしい」と呼び掛けている。

町長選は25日に告示され、いずれも無所属の現職と新人2人の計3人が立候補した。（吉止啓典）

2020年8月27日付 大分合同新聞 1面